

例：シリンダーヘッド11-34

↑ 参照グループ及びページを示す。

あ ~ お

圧縮圧力の測定	11-12
EGR システム	17-2 17-10
EGR クーラー	17-30
EGR バルブ	17-30
EGR パイプ	17-30
インジェクター	13A-22
インタークーラー	15-46
インテークマニホールド	15-48
ウォーターポンプ	14-4 14-26
エアクリナー	15-3
エアクリナー	
<FK6>	15-28
<FK7>	15-30
エアダクト	
<FK6>	15-28
<FK7>	15-30
エキゾーストパイプ	15-50
エキゾーストマニホールド	15-49
エンジンの脱着	11-16
エンジンオイルの交換	12-12
エンジンコントロール	13A-4 13A-16
オイルクーラー	12-5 12-20
オイルジェット	12-14
オイルシール	11-10
オイルストレーナー	12-16
オイルパン	12-14
オイルフィルター	12-6 12-18
オイルフィルターの交換	12-11
オイルポンプ	12-4 12-16

か ~ こ

各部の潤滑	12-7
ガス漏れ試験	14-8
カムシャフト	11-4 11-20
カムシャフトフレーム	11-4
クーリングシステム(冷却水の流れ)	14-3
クーリングファン	14-20
クランクケース	11-8 11-78
クランクシャフト	11-78
コモンレール	13A-18
コンロッド	11-6 11-46

さ ~ そ

サーモスタット	14-3 14-30
サプライポンプ	13A-20
潤滑系統	12-3
シリンダーヘッド	11-4 11-32
シリンダーヘッドガスケット	11-4
シリンダーライナー	11-46

た ~ と

ターボチャージャー	15-4
ターボチャージャー	
<4M 50T5>	15-32
<4M 50T6>	15-38
タイミングギヤ	11-7 11-72
テンションプーリー	14-24
DPF	15-8 15-50

な ~ の

燃料系統のエア抜き	13A-9
-----------	-------

は ~ ほ

バルブクリアランスの点検, 調整	11-14
バルブメカニズム	11-5
	11-32
ピストン	11-6
	11-46
PCV バルブ	17-7
PCV バルブエレメントの交換	17-8
ファンシュラウド	14-13
ブースト圧の測定<4M 50T5>	15-10
ブースト圧の測定, 調整<4M 50T6>	15-12
フライホイール	11-7
フライホイール	
<PTO 付>	11-64
<PTO なし>	11-60
ブリーザーカバー	17-32
プレッシャーキャップ	14-30
ブローパイガス還元装置	17-7
	17-32
フロントケース	11-70
V-ベルト	14-20
VG ターボ制御システム	15-6
	15-14
フューエルシステム (燃料の流れ)	13A-3
フューエルタンク	13A-12
フューエルフィルター	13A-5
	13A-14
フューエルフィルターの交換	13A-10
ホース, パイプの脱着	14-10

ま ~ も

無負荷最低回転数, 最高回転数の点検, 調整	13A-8
メインベアリング	11-8

や ~ よ

油圧の測定	12-13
-------	-------

ら ~ ろ

ラジエーター	14-13
レギュレーターバルブ	12-22
冷却系統のエア抜き	14-8
冷却系統の洗浄	14-6
冷却水の交換	14-6
ロッカーカバー	11-18
ロッカー	11-20

グループ 00 ゼネラル

型式記号	00-2
本書の見方	00-4
略 語	00-9
シャシー番号, エンジン番号, ネームプレート, パワートレインラベル	00-10
整備作業時の注意事項	00-12
ジャッキアップ	00-22
ダイアグノーシスコード	00-24
標準締付けトルク表	00-30

型式記号



①	公害規制適合識別記号	PA ディーゼル 3.5t<GVW ≤12t	平成 15 年排出ガス規制適合車 平成 12 年基準排出粒子状物質 75%低減レベルに適合 (超低 PM 排出ディーゼル車認定制度)(国土交通省)
		PJ ディーゼル 12t<GVW	平成 16 年排出ガス規制適合車 平成 12 年基準排出粒子状物質 75%低減レベルに適合 (超低 PM 排出ディーゼル車認定制度)(国土交通省)
②	基本型式	F	キャブオーバートラック
③	積載量, 駆動方式	K	4~ 8 トン 4×2
		L	4~ 5 トン 4×4
		M	8 トン 4×2
		Q	10 トン超 6×4
④	開発順序	6	フルキャブ
		7	ショートキャブ
⑤	シャシー, サスペンション(前/後)	1	標準(エアオーバースレーキ車)
		2	増トン(フルエアブレーキ車)
		3	低床(4×4)(エアオーバースレーキ車)
⑥	エンジン	D	4M 50T5
		R	4M 50T6
		F	6M 60T1, T2
⑦	ホイールベース	C	2600~ 2900mm
		D	2900~ 3200mm
		E	3200~ 3500mm
		F	3500~ 3800mm (ショートキャブは 3810mm)
		G	3800~ 4100mm
		H	4100~ 4400mm
		J	4400~ 4700mm
		K	4700~ 5000mm
		L	5000~ 5300mm
		M	5300~ 5600mm
		N	5600~ 5900mm
		S	6400~ 6700mm
	U	7100~ 7400mm	

⑧	積載量クラス	なし	4 トンクラス
		X	増トン車 5.5 トン<FK, FL>
		Z	増トン車 8 トン超<FK, FM>
⑨	エンジン類別	1	6M60 T1 (177kW {240PS})
		2	6M60 T2 (199kW {270PS})
		5	4M50 T5 (132kW {180PS})
		6	4M50 T6 (154kW {210PS})
⑩ ⑪ ⑫ ⑬	車両仕様	なし	DX 仕様
A		SA 仕様	
D		ダンプ	
E		広幅<FK>	
F		消防車	
J		楽床ダンプ	
K		簡易クレーン用シャーシ	
M		ミキサー	
U		低床車	
V		NOMAT-II 車	
W		ダブルキャブ	

本書の見方

本書は装置別に分けたグループ単位で下記の構成となっている。

- 諸 元
- 構造・作動
- トラブルシューティング
- 車上で点検、調整
- 整備要領

車上で点検、調整について

- 車両に取付いた状態での各機器の点検、調整等を行う項目を記載している。その他の点検内容（緩み、ガタ、き裂、損傷等）は記載の有無にかかわらず点検する。

整備要領について

- 取外し、取付け、分解、組立て、点検等、各機器を車両から取外した状態で、分解整備の手順をポイントをしばって記載している。

点検について

- 整備基準値をもとに良否の判定をする項目についてはすべて記載している。
- 一般的な目視点検や再使用部品の清掃、洗浄については説明を省略している場合もある。実作業においては必ず実施すること。

注意について

- それを守らないと重大なけがや、場合によっては死亡事故につながる場合、または車両や整備用機器の損傷につながるおそれがある場合に記載している。

用語について

- 前 後
車両の進行方向側を前、後退方向側を後とする。
- 左 右
車両の進行方向に向かい、それぞれ左、及び右とする。

基準値

- 設計上の呼び寸法、部品単一の寸法、または部品を組立てたときの部品相互間の標準すきま等の標準値を示す。

限 度

- 性能上、強度上からこれ以上使用できず、部品交換または修理を必要とする数値である。

締付けトルク

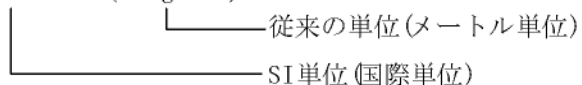
- 標準締付けトルクから外れるボルト、ナットの締付けトルクは直接数値を記載している。
- 記載以外のボルト、ナットの締付けトルクは標準締付けトルク表を参照すること。
(標準締付けトルクはねじサイズ、材質によって定められている)
- ウェットと指示している個所は必ずウェット状態で締付けること。指示がない個所はドライ締付けとする。

単 位

- 本書で使用している締付けトルク等の数値は最初にSI単位(国際単位)を記載し、次に{ }内に従来単位(メートル単位)を併記している。なお、エンジン諸元値、性能曲線等の届出書類を引用する数値及び単位は、従来単位のみ記載している。

SI単位とは、仏語の *Le Système International d'Unités* の略称である。

例) $390\text{N} \cdot \text{m}$ { $40\text{kgf} \cdot \text{m}$ }



量	SI単位 {メートル単位}	SI単位への換算値	
力	N {kgf}	9.80665N {1kgf}	
力のモーメント	N・m {kgf・m}	9.80665N・m {1kgf・m}	
圧 力	正 圧	kPa {kgf/cm ² }	
	負 圧	kPa {mmHg}	0.133322kPa {1mmHg}
		Pa {mmH ₂ O}	9.80665Pa {1mmH ₂ O}
体 積	dm ³ {L}	1dm ³ {1L}	
熱 量	J {kcal}	4186.05J {1kcal}	
熱 流	W {kcal/h}	1.16279W {1kcal/h}	
仕 事 率	kW {PS}	0.7355kW {1PS}	

本書の見方

本文の見方

記号	記号タイトル	記載対象部品	備考
Ta	締付けトルク	標準トルク以外のもの (ただし、整備上必要な場合は標準トルクでも記載している場合あり)	数値は表に記載 トルクに記載がないものについては標準締付けトルク一覧表を参照する
P	位置決めピン	取付け時の位置決めがあるもの	
X	再使用不可部品	再使用不可のもの	
△a	油脂、シール剤	組立て、取付け時に油脂またはシール剤の塗布を要するもの	油脂銘柄、塗布量等は表に記載
Ca	特殊工具	整備作業時に特殊工具が必要なもの	形状、部品番号は表に記載
*a	間接部品	間接的に表示する部品	

指定の締付けトルク指示があることを示す

位置決めピンの位置を示す

ロックアーム、カムシャフト

ロックアームシャフト&ロックアーム

油脂またはシール剤塗布ありを示す

再使用不可部品を示す

エンジン前方

ねじ部にオイルまたはグリースなどを塗布してから締付ける場合は「ウエット」と表示している。

● 分解順

- 1 アジャストスクリュー
- 2 ロッカーブッシュ
- 3 ショートロッカー
- 4 ロッカーシャフトスプリング
- 5 アジャストスクリュー
- 6 ロッカーブッシュ
- 7 ロングロッカー
- 8 エキゾーストロッカーシャフト
- 9 インレットロッカーシャフト

● 組立て順
分解の逆順で行う。

△ 注意

- ロッカーはショートロッカーとロングロッカーの2種類があり、交互に取付ける。また、インレットとエキゾーストでは取付け順が異なるので注意する。

Ⓣ: カムシャフトフレームの位置決めピン取付け穴
ⓧ: 再使用不可部品
*a: カムシャフトフレーム

この部位番号は分解順の番号と同じである

整備基準(単位:mm)

部位	点検箇所	基準値	限度	処置
3, 7	ロッカー(ローラー部)のラジアル方向のすきま	0.038~0.100		交換
2, 6, 8, 9	ロッカーブッシュとロッカーシャフトのすきま	0.01~0.08	0.12	交換

締付けトルク(単位:N・m[kgf・m])

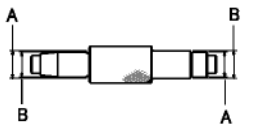
記号	締付け箇所	締付けトルク	備考
Ta	ロックナット(アジャストスクリューの締付け)	11.2 (1.14)	-

油脂・シール剤

記号	箇所	種類	量
△a	ロッカーブッシュの内部	エンジンオイル	適量

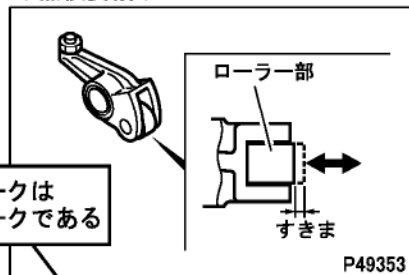
P58002

特殊工具 (単位:mm)

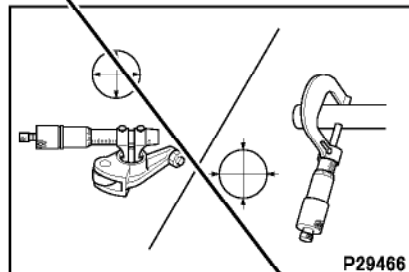
記号	工具名称及び形状	部品番号	用途				
Ca	ロッカーブッシュブラー <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>φ22</td> <td>φ24.5</td> </tr> </table>  P29932	A	B	φ22	φ24.5	MH062536	ロッカーブッシュの脱着
A	B						
φ22	φ24.5						

◆点検要領◆

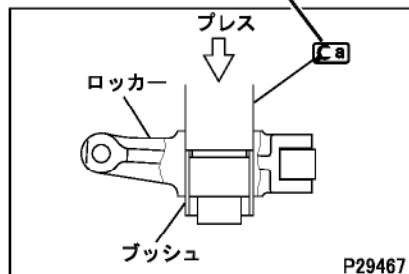
特殊工具のマークは
本文と同じマークである



- 点検：ロッカー(ローラー部)のラジアル方向のすきま
 ●測定値が基準値を外れる場合はロッカーを交換する。



- 点検：ロッカーブッシュとロッカーシャフトのすきま
 ●測定値が限度以上の場合にはブッシュを交換する。



- ロッカーブッシュの交換
[取外し]